

遺跡を掘る!

第24号 2011年4月21日

今年度は湖山池南岸の高住・良田地区で、4つの遺跡を発掘調査します。

石がま漁など、独自の文化を今に伝える湖山池。この湖畔には、どのような遺跡が眠っているのでしょうか?



湖山池の誕生

現在よりも温暖だった縄文時代(約6000年前)には、今よりも海面が数メートルも高く、鳥取平野の大部分は海の底でした(①)。

その後、気候が寒冷になると、海面が低下し、弥生時代(約2500～1700年前)のころには、千代川によって運ばれた土砂が堆積し、鳥取平野ができました。このとき、水深の深い湖山池の周辺は内湾となりました(②)。

そして、中世のころ、砂丘の発達などによってこの内湾が海と切り離され、湖山池が誕生したのです。

湖山池の南岸では、縄文時代(約4000～3000年前)の丸木舟が出土した桂見遺跡や、多量のガラス製玉類が副葬された弥生時代後期(約1900年前)の松原1号墳丘墓などの重要遺跡が発見されています。

湖畔に残る数々の遺跡は、湖山池の豊かな水辺に、古くから多くの人が集い、暮らしていたことを教えてくれます。



星見清晴2009「湖山池—その生い立ち—」『鳥取地学会誌』第13号第10図、第11図を参考に作図

現在の湖山池と南岸の遺跡

(財) 鳥取県教育文化財団
調査室

美和調査事務所

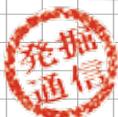
〒680-1133

鳥取市源太 12 番地
(旧鳥取湖陵高校美和分校内)

TEL : 0857-51-7553

FAX : 0857-51-7550

メールアドレス :
matsuik@pref.tottori.jp



今年も発掘調査の準備が始まりました。今年はどうな成果をお伝えできるのでしょうか。通信やホームページでもお知らせしていきますが、今年度の調査地はそれぞれとても近い場所にあり、遺跡をまわりやすくなっています。ぜひ現場にもお越しください!

鳥取県教育文化財団 調査室

検索

湖山池南岸に埋もれた歴史をさぐる

～平成 23 年度の発掘調査～

発掘調査地は、いずれも湖山池の南岸に面した谷の中にあります。

この周辺には多くの遺跡があって、これまでに桂見地区や松原地区で行われた調査によって、昔のようすが少しずつわかってきています。

今年度は、高住地区で3か所、良田地区で1か所の調査を行います。良田地区では初めての大規模調査となります。新たな発見によって、この地域の歴史がより明らかになると期待しています。今後の発掘情報をどうぞ楽しみに。

たかすみ い で ぞえ い せき 高住井手添遺跡

高住地区の谷を流れる三山口川みやまぐちの東岸にある遺跡です。

事前に行われた試掘調査では、縄文時代から弥生時代の土器や石器が出土しました。



高住地区を南西上空からみた写真

たかすみ う し わ だ に い せき 高住牛輪谷遺跡

高住井手添遺跡の東側にある遺跡です。

弥生時代から古墳時代の集落跡が見つかる可能性があります。



● はこれまでに当財団が調査を行った場所を示しています。
湖山池周辺を南からみた CG 画像*

よしだ ひら た い せき 良田平田遺跡

試掘調査では、奈良時代から平安時代の遺物が見つかりました。丘陵をはさんだ東側にある、同時期の高住平田遺跡と、どのような関わりがあるか、注目しています。



調査区周辺を南からみた CG 画像*

たかすみ ひら た い せき 高住平田遺跡

昨年度の調査では、貴族の横顔をかたどったと思われる木製の人形代ひとがたしろや銅製のハンコなど、珍しい遺物が出土しました。

今年度は、その南側と東側を調査しますので、どのような遺構や遺物が見つかるのか、楽しみです。



人形代

*CG 画像は、国土地理院が公開している航空写真と基盤地図情報（標高データ）を合成したもので、高さは2倍に強調しています。